

大牟田市立中友小学校

1 本校のESDの特徴

大牟田市では、『「共生社会の構築」, つながりを理解し, かかわりを深める児童生徒の育成』を重視している。この基本的な考えを受け, 一人暮らしの高齢者が多い校区の特色を踏まえ, 児童が校区民生委員と一緒に高齢者宅を訪問したり, 大好き中友あんしんネットワークが実施する「ほっとあんしんSOSネットワーク模擬訓練」に参加したりしている。また, 校区内を流れる大牟田川の調査を通して, 町の取組や地域の取組の歴史・人々の思いや願いを学習することで, 地域への関心を高め, 他者との関係性・社会との関係性を認識し, 「つながり」や「かかわり」を尊重して, 地域の一員として自分たちにできることを考えたり, 実践したりする児童を育て, 共生社会の構築を目指す取組を推進している。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

＜スローガン：地域とともに, 未来につながる中友

生活・総合的な学習の時間を中心にした取組【福祉教育】【地域学習】>

- ・1年生(生活科)・・・「みんな なかよし (ともだち がっこう いきもの)」
 - ・2年生(生活科)・・・「野さいをそだてよう」「レッツゴー町たんけん」「みんな生きている」
 - ・3年生(総合)・・・「心の目を育てよう」
 - ・4年生(総合)・・・「大牟田川調査隊～大牟田川の環境を守る～」
 - ・5年生(総合)・・・「みんながつながる中友校区を目指して～子ども民生委員活動～」
 - ・6年生(総合)・・・「長崎から学ぶ」
 - ・全学年「十日市をもりあげよう」・・・校区内の商店街で行われる十日市への参加
- ※関係機関との連携・・・地域の民生委員, 公民館連協, 福祉関係機関, 教育関係機関

3 特徴的な活動事例

(1) 5年生「子ども民生委員活動」

(総合的な学習の時間49時間)

民生委員の仕事や役割について学習した後, 「子ども民生委員委嘱状」を受け取り, 地域の方(高齢者宅など)への挨拶回りをして, 子ども民生委員活動を行っていく上でのめあてをつかんだ。次に, 「絵本教室」を行い, 認知症ライフサポート研究会の方を招いた認知症についての学習を通して, 認知症の方への接し方を考えた。その後, 「ほっとあんしんネットワーク模擬訓練」に参加し, 民生委員さんと一緒になって, 接し方や声のかけ方を体験した。また, 校区の高齢者の家を訪問し, 長寿のお祝いを渡した。さらに, 高齢者福祉に役立つ「赤い羽根共同募金」について知り, 十日市の日(10月10日)に銀座商店街において街頭募金を行った。これらの活動を通して, 福祉活動への理解を深め, 社会の一員としての自覚を持つことができた。



(2) 4年生「大牟田川調査隊」

(総合的な学習の時間 38時間)

4年生において、市内の5つの小学校が連携した『川プロジェクト』の取り組みを行った。本校では、大牟田川の観察や水質検査等をGTの先生に教わりながら活動した。大牟田川近辺の植物や、水辺に住む生き物について学び、全滅危惧種のカニがいることを知ることができた。また、子どもたちは「大牟田川がなぜ汚れたのか」、「汚れた川をきれいにするための大牟田市の取組」、「地域住民による取組」、「現在の企業の取組」、「現在生存する生き物」の5つのグループに分かれ、大牟田川の歴史とともに、人々の活動や思いについて調査をしてきた。様々な方々をGTとして招き、当時の写真や新聞記事などの資料を基に調査を進めた。学習を通して、今後もきれいな大牟田川を守っていくために、一人一人が考えていかなければならないことを感じ取り、自分たちにできることを実践していく意欲を持ち行動することができた。



※これまでの学習についてまとめ、他学年や保護者・地域の方へ発信する。

- ・Mボードを使った発信
- ・ユネスコスクールの日集会
- ・校内や十日市での資料掲示

4 本年度の成果と課題

○成果

- ・ESDを通して身につけさせたい資質・能力を明確にしたことで、児童の変容をつかみ評価することができた。
- ・ストーリーマップを作成し、単元計画をより具体的にすることで、1つ1つのステージにおける活動後に整理・分析を位置づけることができ、次の学習へと課題をつなぐことができた。
- ・街頭募金では、募金して下さった方々にお礼の言葉を言ったり、相手に合わせた言葉かけをしたりと、笑顔で積極的に関わろうとする姿が見られるようになった。
- ・地域の方（民生委員さんや見守り隊の方、名刺を配布した高齢者の方々など）への日常的な挨拶ができる児童が増えてきた。
- ・どの学年もGTを招いた学習を取り入れたことで地域の方々との連携がより強化された。
- ・地域、保護者の方々にESD学習や取組、内容が浸透してきた。

○課題

- ・地域、他校への発信の仕方の工夫
- ・年間計画の見直し（時間・内容・学年間のつながり）
- ・新型コロナウイルス感染症などの感染拡大を予防するために活動が制限される中で、ICT機器の活用を含めた指導法の工夫